

第4回亙理町震災復興会議

日 時	平成23年10月1日(土) 9:30~12:00
会 場	亙理町中央公民館大ホール
出席者	委員：石川幹子委員、今村文彦委員、大村虔一委員、加藤徹委員、岩佐國男委員、川村勝司委員、菊地伸悦委員、中嶋一昭委員、丸谷由郎委員、三品幸徳委員、荒都由美委員、菊地一男委員、木村律子委員、鈴木征治委員、安細隆之委員、佐藤實委員、鈴木高行委員 (敬称略・五十音順) オブザーバー：本間光彦(代理)、本多吉美、遠藤信哉、千葉友弥(代理) 亙理町：齋藤邦男、齋藤貞、岩城敏夫、佐藤仁志、佐藤浄、高橋伸幸、日下初夫、安喰和子、阿部清茂、東常太郎、酒井庄市、古積敏男、作間行雄、齋藤良一、遠藤敏夫、佐々木利久、丸子司 事務局(震災復興推進課)：齋藤輝彦、神林俊勝、中沢孝至、安倍正人、南部浩秀、齋藤正樹、赤松俊幸、井上広之

1. 会議次第

- 1 開 会
- 2 挨拶 亙理町長 齋藤邦男
- 3 議 事
 - (1) 津波シミュレーション結果と居住地域について
 - (2) 亙理町震災復興計画(案)について
- 4 閉会

2. 議事

	《亙理町津波シミュレーション試算結果、移転を促進する地域(案)について震災復興推進課長が説明》
	《意見交換》
佐藤委員	・ 移転を促進する地域で円滑な事業実施を図るため、住民の意向を把握していく必要があると思います。
今村委員	・ 津波シミュレーションの詳細な条件は妥当なものだと思います。今後は、防潮堤等の機能をしっかり検討する必要があると思います。 ・ 今回の津波シミュレーションは施設が破壊しない条件で実施していますが、絶対に破壊しないとは限らないことを注意しておかなければいけません。 ・ 車で避難ができるように避難道路の十分な検討が必要だと思います。また、まちづくりの中で安全に避難できるように継続的に検討していく必要があると思います。
安細委員	・ 橋本堀沿いの嵩上げ道路の幅はどのくらい必要なのでしょう。

高橋震災復興推進課長	<ul style="list-style-type: none"> 荒浜東部において1次的に避難できる丘のような場所が必要ではないかと思いません。 嵩上げ道路の高さは T.P 5 m で考えており、それに対応した幅員を宮城県と調整しながら検討を進めていきます。 避難施設については、移転を促進する地域にも就業者や観光客がいることが想定されるので、避難場所の確保を適切に進めていきます。
加藤委員	<ul style="list-style-type: none"> 橋本堀沿いに道路をつくった場合、道路としての利用はどのくらいあるのでしょうか。また、嵩上げ道路の東側にいる人が避難する際に利用する避難道路の嵩上げ道路への取り付けはどのように考えているのでしょうか。
高橋震災復興推進課長	<ul style="list-style-type: none"> 橋本堀沿いの嵩上げ道路は、県道相馬互理線として振替えを想定しており、沿岸部の基幹道路の役割を担うものと考えています。避難道路の嵩上げ道路への取り付けについては、円滑な交通が確保できるように今後詳細な設計の中で検討していきます。
鈴木(高)委員	<ul style="list-style-type: none"> (主)相馬互理線や(主)塩釜互理線に接続する東西方向の避難道路を位置づけてほしい。また、スマート I.C から東側へアクセスする道路があれば、物資や人の輸送などに活用できると思います。
石川委員	<ul style="list-style-type: none"> 荒浜地区は移転を促進する地域とそれ以外の地域に分れており、移転を促進する地域の人には防災集団移転促進事業と災害公営住宅整備を組み合わせるなど手厚い制度がある一方、それ以外の地域については今後どうなるのかが見えていません。今後国の制度はさらに改善されると思うので、将来の荒浜の姿をしっかりと考え、それを踏まえて復興の事業を検討してほしい。
高橋震災復興推進課長	<ul style="list-style-type: none"> 将来の荒浜地区全体の土地利用の方向についてはまだ整理しきれていません。災害公営住宅の必要な戸数については、1 回目の意向調査結果から推計すると約 500 世帯となっており、今年度末に県に設計をお願いしながら検討していきます。事業の進め方については国が制度の見直しを進めているので、10 月に2回目の意向調査を実施し、住民の意見を取り入れながら検討を進めていきます。また、移転を促進する地域になっている荒浜5丁目、築港、港町、吉田東部については事業の説明をしながら進めていきます。
菊地(伸)委員	<ul style="list-style-type: none"> 荒浜の2号排水路の東側では住宅が建てられないので、2号排水路の東側の人は決心をしなければいけない状況にあります。そのためには町として移転を促進する地域をどのようにしたいか方向性を示す必要があると思います。 鳥の海湾は町の農業排水が流れてくるため海が汚れてしまっていました。農業排

高橋震災復興推進課長	<p>水についても検討してもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回示させていただいた移転を促進する地域内の方については、荒浜地区では荒浜地区の農地に移転することを考えています。吉田東部については、住民と話し合いを進めながら早期に決めていきたいと考えています。移転の元地については、現時点では土地を買うかどうか及び土地の価格について煮詰まっていないため、今後整理して示していきたいと考えています。 ・ 鳥の海湾については、水辺の再生など地域の方の意見を取り入れながら検討を進めていきます。
岩佐委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 吉田東部にはイチゴ農地がありますが、地盤沈下して水がたまっている状況なので用排水路の整備を国にお願いしながら優良な農地に早期に戻してもらい。
東産業観光課長兼わたり温泉島の海所長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常磐自動車道東側については被害が甚大であり、除塩だけでは農地の復興ができません。現在は県に頼んで調査をしており、来年に向けてほ場整備を促進するための協議会設置を予定しています。
三品委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海からくる津波の防御ばかりではなく、排水について水をどのように抜くかを考える必要があると思います。地盤沈下しているところがあることや町の大半の排水が鳥の海湾に流れることから重要な検討課題だと思います。排水については鳥の海湾とは別の場所へ排水することも検討し計画にに入れてほしい。
	<p>《亙理町震災復興計画（案）の概要について震災復興推進課長が説明》</p> <p>《意見交換》</p>
川村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阿武隈川堤防整備に係わる事業調整が必要な地域のスケジュールがあれば教えてほしい。
高橋震災復興推進課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阿武隈川の河川堤防については、国土交通省が詳細な設計を行います。それにより事業の区域が明らかになるまで約2ヶ月を要すると聞いています。
中嶋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国土交通省との調整はあると思いますが、わかる範囲で河川堤防の事業について教えてほしい。
高橋震災復興推進課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の津波シミュレーションの結果を踏まえ、前回お示した阿武隈川沿いに幅50mの緑地を整備する案は取りやめて再設定しました。阿武隈川の堤防については、国の設計になるので詳細が分かり次第、速やかに説明していきます。

丸谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浸水深が2 mを超える場所は移転を促進するべきで、今回示された移転を促進する地域の案は尊重するべきだと思います。 ・ 計画の策定については決定後そのままではなく地元の意見をうかがいながら、適切な見直しをしていく必要があると思います。 ・ 移転を促進する地域内の人に対する買取りなどの補助を考えないと非常に困ると思うのでよい方法を検討してほしい。
荒委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災集団移転促進事業についての説明会を町に開いてもらいました。不安を感じることが多いので今後とも事業の進捗に合わせて説明する機会を設けてほしい。 ・ 今後の学校のあり方、方針を説明してほしい。
亙理町教育委員会教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年1年生になる子供をもつ保護者は不安に感じていると思います。基本的には震災前の学区の小中学校に入学、進学してもらうように考えています。
菊地(一)委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥の海湾の再生のためにも排水対策について計画にいかれていくべきだと思います。 ・ 常磐自動車道のスマート I.C が開設する際にはわたり温泉もオープンできるようにしてほしい。 ・ 新たに家を建てられない人もいるので災害公営住宅を早期に建設してほしい。
木村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 荒浜は人口が減少しているため、できる限り荒浜に住んでいた人が帰ってきてよかったと思えるまちづくりをしてほしい。 ・ 台風の時に荒浜地区も浸水したところがあるので排水についても考えてほしい。 ・ 仮設住宅に住んでいられる2年の間に安心して住める新たな生活基盤をつくるために土盛りやピロティなど建てることのできる建物についても話をしてほしい。
鈴木(征)委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 吉田浜については集団移転促進事業しかないと思っていたので、今回示された移転を促進する地域の線が良いと思っています。今後、説明会をしていただきながら進めてほしい。
安細委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たに防潮堤を整備するのに合わせてどのように排水を外洋に流すかが町でもとても重要であり、計画に盛り込むよう検討してほしい。
加藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥の海湾への排水については長い間検討事項になっていましたが、問題は農地から排水されることではなく、その水に農薬や化学肥料が含まれていることであるため、環境保全型の農業の導入や排水路の整備、浄化システムを取り入れる仕組みを検討する必要があると思います。 ・ 広範囲の農地が水をかぶっているため農地の復興・復旧はスピード感をもって実

	<p>施す必要があり、農業を存続するため復興特区などで早急に実施してほしい。また、きめ細かい合意形成も必要だと思います。</p>
石川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復興計画図が次回までに必要だと思います。移転を促進する地域や移転先をどのようにするのかを示す必要があると思います。 ・ スマート I.C もでき、多くの人が荒浜を訪れると思います。荒浜は農業、漁業、サラリーマンを含めて国際的な拠点になる可能性があります。そのような意気込みでやるべきだと思います。
佐藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移転を促進する地域の中で移転したくない人に対する事業の進め方について教えてほしい。
高橋震災復興推進課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町はあくまでも移転を促進する立場なので、今後リフォームして住み続けたいという人に対して強制的に移転していただくのは難しいと思います。ただし、新築などの場合には安全な地域に移っていただくことを考えています。今後、そのようなことについても整理をしたいと思います。
佐藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移転を促進する地域には市場や事業所もあります。これらの建物についても新築はできなくてリフォームだけ認められるということでしょうか。
高橋震災復興推進課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移転を促進する地域内の居住以外の建物については、構造の制限はしますが建築は認める方向で考えています。
丸谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 賑わいの創出にはわたり温泉の位置づけが非常に重要です。また、産業の発展のためにも常磐自動車の開通を待たずに早急に再開するべきだと思います。
大村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ スケジュールについて次回はどの時期にどんなものを出すか整理してほしい。 ・ 町として大胆に新たなまちづくりを計画できる機会と捉え、農業、漁業や都市についてもどのようにしていくか提案が必要だと思います。 ・ 今回の津波シミュレーションで 3 月 11 日の津波で浸水した場所の内、満潮時の潮位でも 4～5 割程度しか浸水しないことが明らかになったことは復興計画として 1 つの成果だと思います。

以上